

東京宣言 “Tokyo Appeal”（訳文）

われわれは、子ども・青少年のスポーツについて、

- 運動不足による肥満と慢性疾患の増加
- 学校と地域の連携
- 多様な人種・民族・文化・習慣・身体的特徴等の受容と尊重
- スポーツ活動を通じたリーダーシップの育成

を、世界共通の主な課題と認識する。

こと日本においては、

- 運動・スポーツをよくする子としない子の二極化
- 女子（とくに中学生）のスポーツ離れ
- 2011年の東日本大震災被災地におけるスポーツ機会の喪失

を、主な課題と考える中、

□幼年期から青年期は、生涯にわたって運動・スポーツに親しむ資質や能力の基礎を育む重要な時期であるとの認識を、子どものスポーツにかかわる全ての関係者が共有し、

□学校における指導者、学外スポーツ組織（地域スポーツクラブ・民間スポーツ事業者など）の指導者はその共有認識のもと、パートナーとして協力し、適切な環境と機会の創出に努め、

□国・地方公共団体のスポーツ行政担当者は、学校と学外スポーツ組織の協力を推奨して学校施設の共同利用など「スポーツを楽しむ場」の充実を図り、

□研究者・研究機関は、子どものスポーツの最新状況について深く調査・研究の上、結果を広く周知し、

□国、地方公共団体、学校、スポーツ団体及び民間スポーツ事業者その他の関係者が、各々の立場を超えて連携することを通じて、

次代を担う全ての子どもたちが、国籍、性別、身体能力、社会的・経済的背景などに影響されることなく、各々の関心と適性に応じて、いつでも、どこでもスポーツを楽しめる社会の構築に全力を注ぐことを宣言する。

TAFISAは、子ども・青少年を含む全ての個人にスポーツ、身体活動の実施を奨励・促進し、“アクティブ・ワールド”の実現を目的とする世界最大のスポーツ・フォー・オール運動推進の国際統括機関として、上記宣言の趣旨に賛同し、全面的にこれを支援する。

TAFISA会長
李 康斗

SSF理事長
小野 清子